

■ 日本アドバンス・ケア・プランニング研究会第9回年次大会  
特別企画「ACPから見た身体拘束の最小化とは」を開催しました。

2024年9月21日（土）北海道札幌市で対面開催

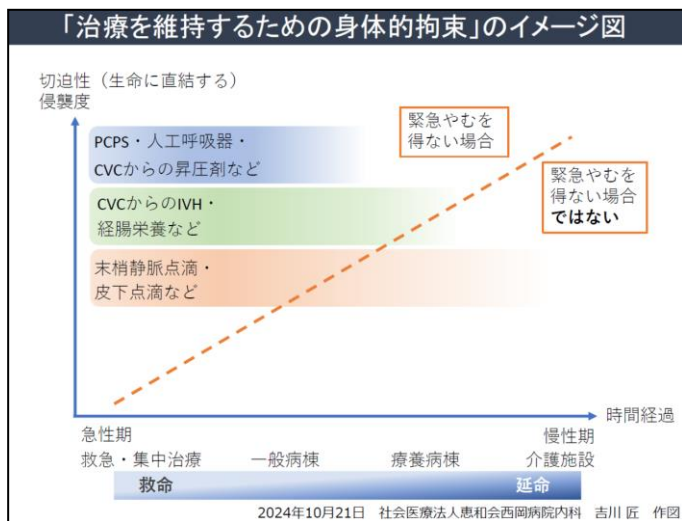
「ACPサイクルでつなぐ人生会議」～話す、残す、伝える、見直す～を開催し、12月までオンデマンド視聴期間となっています。対面参加・オンデマンド視聴含め600名以上の参加をいただきました。

2024年12月4日（水）オンラインにて

「ACPから見た身体拘束の最小化とは」を開催し、約150名の参加がありました。

■ 急性期医療～慢性期医療の立場から

西岡病院 吉川 匠 内科医長（北海道）



令和6年度診療報酬改定における入院料通則の設定（身体的拘束を最小化する取組の強化）を紹介し、左図を用いて身体的拘束とACP（緊急やむを得ない場合の判断にACPがどう関わるかを考える）の考え方を事例を提示し、説明をいただきました。

アンケート

- ・ 治療を維持するための身体的拘束のイメージ図が特にわかりやすかったです。
- ・ 症例を出してお話いただいたことで、具体的にどのタイミングでの話し合いが有効か分かりやすかったです。
- ・ 経腸栄養を含む延命治療への考え方などが分かりやすかったです。

■ 慢性期医療の立場から

介護医療院 小坂病院 小坂 昌宏 理事長（北海道）

最初に介護医療院の立場として、「穏やかに過ごすこと」を最大の価値の考えていること、将来的には「非がん疾患のホスピス」として位置づけしてもらうように考えているという小坂病院の基本姿勢とそのうえで、介護施設・事業所等で働く方々への身体拘束廃止・防止の手引きの内容をもとに、日々の実践を交え、お話しいただきました。

アンケート

- ・ 慢性期だからこその具体例がありわかりやすかったです。
- ・ 尊厳の保持を柱とした考えにとっても共感しました。
- ・ 診療過程の違う立場の考え方、お気持ちがあった。
- ・ 入所時点で本人の意思疎通が出来ない段階での対応は難しいと思いました。いかに、急性期病院での対応が重要か感じました。

■ 超急性期医療の立場から

総合大雄会病院 宮部 浩道 副院長（愛知県）

超急性期医療と身体的拘束で具体的に実際の臨床場面としてICUで行う治療と身体的拘束の3要件（切迫性、一時性、非代替性）と治療の選好を話し合っていく際の身体的拘束の視点や優先したいことと妥協できることとACPの関係性についてお話しいただきました。

アンケート

- ・ 急性期だからこその難しさ、わかりやすくお話しただいてよかったです。
- ・ 治療の目標ゴールを定める事で、その方にとって最適な治療方法が決められる可能性があることがよくわかりました。
- ・ 超急性期は不完全な状態で引き継ぐので、意思決定は見直してほしいとの言葉が印象的でした。

■ 弁護士立場から 札幌総合法律事務所 福田 直之 弁護士（北海道）＜第9回年次大会 大会長＞

第9回年次大会で繰り返し登場したACPサイクルを用いて意思決定支援のポイントと身体拘束に関する裁判事例（民事）を紹介し、再度「話す」ことができる捉えること、「見直す」という家庭の重要性、真意を「残す」こととしてACPサイクルの重要性をお話しいただきました。

アンケート

- ・ 法的なところを実際の事例での話をしていただきわかりやすかったです
- ・ 法的に問われるか否かという部分について、ACPサイクルを適切に実施する事が重要と再認識できました。
- ・ 医療職からすると法律が絡むと厳しい見方かもしれませんが、現実実感しながら診療・ケアに関わらなければいけないと肝に銘じました。

■ 総合討論 (進行) 西岡病院 澤田 格 内科部長（北海道）＜第9回年次大会 大会長＞

アンケート

- ・ 患者・家族との面談（話の切り出し方、聴き方）を中心に進めていただき、医師の立場に限らず、参考になりました。
- ・ 終末期（人生の最終段階）の定義の違いが、立場によって異なることを改めて感じ、それをいかに共通認識とするかが私たちに必要な努力だと強く感じました。
- ・ 先生方の関係性が非常に微笑ましかったです。先生方がそれぞれの専門のお立場から、ACPIについて楽しく正確にわかりやすく伝えていただけるよう、雰囲気づくりをして下さっていたように感じたからです。
- ・ 優しいながら鋭い質問とその後のわかりやすいまとめや要約により理解が深められました。

◎ 講師派遣実績

12月14日（土）令和6年度北海道在宅医療推進支援セミナー事業 人生会議（ACP）普及に向けた多職種向け研修「ACPの基本を学ぶセミナーー意思決定支援の基本とACPの実践事例ー」の講義を当研究会 三浦 久幸 代表理事（国立長寿医療研究センター）が担当しました。

北海道在宅医療推進支援センター <https://hokkaido-zaitaku.jp/>

当研究会ではACPの普及・促進のため、講師派遣事業を行っています。ご希望の際は事務局までお知らせください。



当日のシンポジウムの様子（写真左が三浦久幸当会代表理事）

◎ 研修予定

①2025年3月8日（土）13：00～16：00（オンライン）

テーマ：「病院におけるACP（仮）」

- 内容：
- ・ 講義「意思決定支援の基本と当研究会の取り組み」  
当研究会 代表理事 三浦 久幸（国立長寿医療研究センター）
  - ・ 実践報告 3病院程度を予定
  - ・ グループワーク 実践報告の医療機関の職員がファシリテーターとなり、グループワークを行う予定

※病院勤務の医師、看護師、薬剤師、リハビリ職、医療ソーシャルワーカー等のほか、診療所、介護事業所の方の参加も可能です。

※研修申込は2025年1月に開始予定です。

②2025年5～6月頃（オンライン）厚生労働省医政局地域医療計画課（調整中）

テーマ：「人生会議（ACP）の普及啓発と政策について」（仮）

③2025年9月6日（土）10：00～16：00 第10回年次大会

テーマ：「ACPってなんやねん？」～だれのためなん、なんのためなん？～

会場：大阪コロナホテル (<https://www.osakacoronahotel.jp/>)

※対面開催のみで、オンライン開催・後日配信などはございません。ぜひ会場にお越しください。

※詳細はホームページに公開いたします ([http://jacra.umin.jp/acp\\_meeting10/index.html](http://jacra.umin.jp/acp_meeting10/index.html))

【事務局】〒062-0034 北海道札幌市豊平区西岡4条4丁目1-52

西岡病院内（担当 岡村 紀宏） ☎011-853-8322 E-mail: [acp.study.group@gmail.com](mailto:acp.study.group@gmail.com)